



投資環境

2022年7月14日

日銀の金融政策修正への思わく

▣ 日銀の金融政策修正への思わくから、6月には長期金利は一時0.265%まで上昇

黒田日銀総裁の任期満了(来年4月8日)まで9か月を切る中、日銀の金融政策の修正をめぐる思わくがくすぶっています。

前回の日銀金融政策決定会合では、結果が発表される6月17日に長期金利(新発10年国債利回り)は一時0.265%と、日銀が許容する上限の0.25%を大きく上回りました。ただ、日銀が強力な金融緩和策を維持し、短期の政策金利をマイナス0.1%、長期金利をゼロ%程度で推移するよう誘導する長短金利操作(イールドカーブ・コントロール)も据え置いたことを受け、長期金利は0.2%台前半に戻る動きになりました。

▣ 金融政策修正の候補

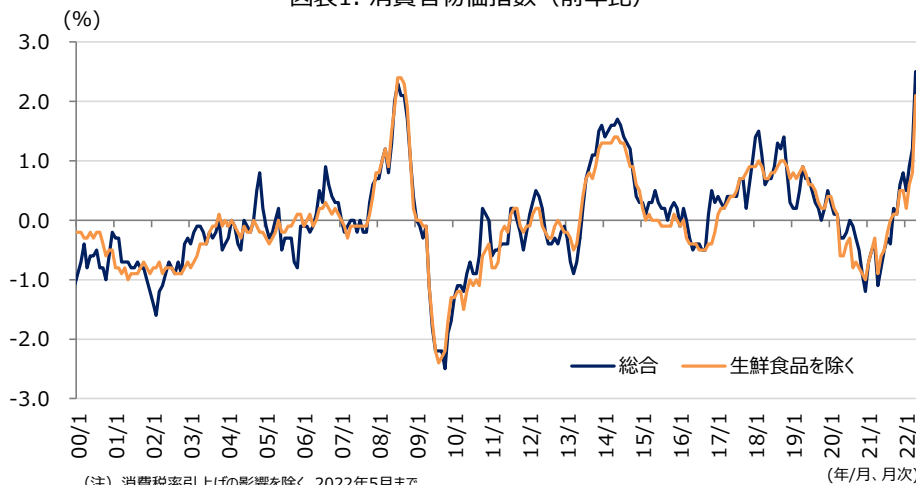
日本でも当面、物価上昇率が物価安定目標の2%を超えて推移することが見込まれる中、日銀も何らかの政策修正に動く、もしくは来年の日銀総裁交代に伴い政策の枠組みが修正されるとの観測が根強く残ります(図表1)。

金融政策修正の候補としては、

- フォワードガイダンス「現在の長短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定している」の修正、削除
- 長期金利の許容変動幅(±0.25%)の拡大
- 長期金利の誘導目標(ゼロ%)の引上げ
- 現行10年債としている操作対象の5年債などへの短期化
- マイナス金利の解除

などが挙げられています。

図表1. 消費者物価指数(前年比)



(注) 消費税率引上げの影響を除く。2022年5月まで
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

▣ 日銀総裁人事も本格化

次の日銀総裁については、今のところ雨宮正佳副総裁と中曽宏大和総研理事長(前副総裁)の一騎打ちの音が聞かれます。



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
 Shinkin Asset Management Co., Ltd 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL: https:// www.skam.co.jp

雨宮氏については、企画担当理事や副総裁として黒田総裁を支え、異次元緩和やマイナス金利政策、長短金利操作などさまざまな非伝統的な金融緩和策の設計を主導してきた人物とされています。

中曽氏については、海外金融当局者との親交が深く、金融市場局長と国際決済銀行（B I S）市場委員会議長を兼任するなど、金融システム、市場取引、国際金融に精通しており、異次元緩和には慎重な考えだったとされています。

参院選が終了し、政府は日銀総裁人事の調整を本格化させるとみられます。アベノミクス継承を唱えるリフレ派が推す雨宮氏なら黒田路線が続く可能性が、中曽氏ならやや大きな枠組み修正の可能性が出てきます。

日銀総裁人事も絡み、日銀の金融政策をめぐって金融市場が神経質な動きとなる場面も出てきそうです。

(参考) 国内債の利回り推移



(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

(シニアストラテジスト 鈴木和仁)



＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、請求目論見書については、販売会社にご請求いただければ、当該販売会社を通じて交付いたします。

【お申込みに際しての留意事項】

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

（お客様に直接ご負担いただく費用）

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 上限 3.3%(税抜 3.0%)
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 上限 0.3%

（保有期間中に間接的にご負担いただく費用）

- ◆ 運用管理費用（信託報酬）・・・純資産総額に対して、上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用（手数料等）の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくお読みください。

- ※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。